

## 報告：第30回 DPI 日本会議全国集会 in 静岡

障害者権利条約批准そして完全実施に向けて  
～障害者制度改革第2ラウンドへ～

副会長 八幡 孝雄

快晴の6月14日(土)、15日(日)、第30回 DPI 日本会議全国集会 in 静岡が「障害者権利条約批准そして完全実施に向けて～障害者制度改革第2ラウンドへ～」をテーマとし、静岡市清水文化会館マリナートを主会場に開催された。

全国から障害の枠を超えた仲間が300人以上集まり、障害の有無によって差別されず、排除されることのない共生社会を目指して話し合った。

2014年度はDPI日本会議の常任委員改選の年であり、総会では今後2年間の常任委員を選出、議長は山田昭義氏から平野みどり氏(自立生活センターヒューマンネットワーク熊本)に、事務局長には佐藤聡氏(自立生活センターメインストリーム協会)が就任、三澤了元議長、楠敏夫前議長が逝去後の新体制によるDPI日本会議がスタートを切った。当会も引き続き八幡が常任委員を務めることとなった。

夜の交流会には、静岡にて開催された「DPI 北東アジア小ブロック会議」に参加した中国、韓国、モンゴルの障害当事者も参加し国際交流した。

2日目は、全体会にて韓国 DPI 会長のキム・デソン氏より「DPI 北東アジア小ブロック会議報告」。



外務省・山岡氏講演の会場

第2部では外務省の山中修氏より障害者権利条約批准までの日本政府の取り組みについての講演。



シンポジスト左より 平野、東、清水、石川の4氏

シンポジウム「障害者権利条約批准 意義と課題 ー国際連帯、国内監視体制の確立ー」が清水誠一・衆議院議員、東俊裕・元内閣府障害者制度改革担当室長、石川准・内閣府障害者政策委員会委員長、平野みどり・新議長によって行われ、権利条約批准はゴールではなく、制度改革第2ラウンドに向けたスタートであること、今後の取り組みが重要であることを確認し合った。

また緊急課題として「精神科病棟転換型居住系施設に反対する緊急アピール」が出され、満場一致で採択された。

午後の分科会では「地域生活」、「交通・まちづくり」、「権利擁護」、「教育」、「雇用・就労」、今日的課題である「生命倫理・優生思想」、「女性障害者」について話し合った。

全国集会に於いては、全国的な広がりとなっている障害者差別禁止条例作りの情報交換や、女性障害者の参画を促進していくこと、また諸政策に納得がいけない場合「おかしい、納得できない」という声を、政府、各自治体等に届け続けることが大切だということ等も確認された。当会も他団体と連帯、協力し、門前払いされても、あきらめることなく当事者の声を届けていきたい。